

# 第1回 外来魚調査&駆除

豊川では年間数十万匹のアユが遡上します。しかし、なぜかそのアユの成育が悪くなっています。また雑魚も少なくなっています。そこで、3年前からアユの産卵場づくりに取り組んできており、今年も実施する準備をしています。

今回は、アユがどのくらい外来魚による食害を受けているか実際に調査して実態を調べました。

主催は豊川上漁業協同組合。協力団体は豊川を守る住民連絡会議、国土交通省豊橋河川事務所、愛知県水産試験場。取材はCAN事務局の他、東日新聞が来ていました。CAN事務局は山本が参加しました。

結構流速があって足を取られて川の中で2回こけましたが、小魚2匹、小亀2匹ゲットしました。

実施日時 2018年9月2日(日) 9時~12時

調査地域 賀茂橋の上下流



## 調査内容

- ① 前日9月1日(土) 13時~15時に仕掛けておいた刺網や仕掛けなどを引き上げる(漁協)
- ② 各地点に分かれて、小型のモンドリ(仕掛け網)を使用して、何が捕獲できるか調査する(協力者)
- ③ 網・タモなどを使い何が捕獲できるか調査する(協力者)
- ④ 集計及び解説 そして 外来魚の解剖 何を食べているかを調査し調査の成果を解説していただく(専門家)

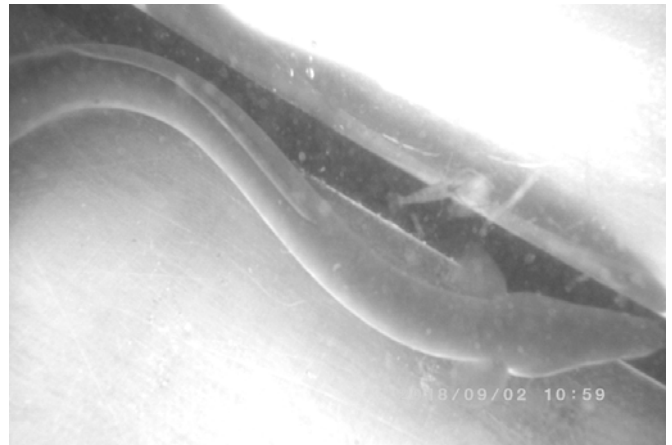
## 結果



結果はオイカワ、ボラ、コイ、ウグイ、ヌマヅクリ、スジシマドジョウ、タモロコ、フナ、ゴクラクハゼ、ザリガニ、ウキゴリ、ヨシノボリ、カワヨシノボリ、ギギ、スナギ、アユ、ブラックバス、ミシシッピーアカミミガメ etc. 20 種類の魚種（魚種同定は淡水魚水族館ぎょぎょランドのアサカさんが行いました）が確認され、結構豊かな生態環境であることが確認できました。

また、その内ブラックバスを始めとするアユの敵と目される外来種は25%程度でしたが小魚ばかりでした。従って、今回の結果からはアユの食害の証明はできなかったことになります。

しかし、個別に見ると体長30cmくらいのフナ、大きなウナギ、スッポンが捕獲され誰が食べるのだろうと気になりましたが、余計な心配で川へ放流（するといっていました）。



写真は本日の主役、フナ、スッポン、ウナギの大型個体。

ミシシッピーアカミミガメは事前予想通り大物がたくさん捕獲されました。これらは生きて返すわけにはいかないなので、網に入れて川に沈め、溺死させた後、タヌキなどに掘り返されないように深く埋めるといったような手間のかかる話でしたが、確認する時間はありませんでしたし、見たくありませんでした。

文責 / 山本